令和３年６月定例会一般質問

通告２

質問　ＮＩＥ（教育に新聞を）運動について

答弁　取り入れを推奨できるが実施を求めるのは難しい

６番　松野 美哉子 議員

【質問：松野 美哉子 議員】

６番、松野美哉子でございます。

ＮＩＥ、教育に新聞を運動について。新聞を授業や学校の活動で使って子供たちの学びの世界を広げよう。

ＮＩＥは、こうした趣旨に基づく国際的な教育運動で、Newspaper・In・Education の略称で日本語では教育に新聞をと訳しています。新聞には教科書では追い切れない、最近の社会の動きや情報が信頼度の高い状態でリアルタイムで載っています。

ＮＩＥが育てる力として記事を読んで読解力、思考力、情報処理と分析力、社会への興味関心などが記事を話題にして聞く、話す力、多様な考えを受けとめ理解する力が挙げられます。

ＮＩＥは 1930 年代にアメリカで識字力を高め、社会の動きに合わせて教育効果を高めるために展開され、その後世界に広がり 80 カ国以上で行われております。

日本では 1985 年、日本新聞協会で提唱されました。教育現場では、新聞づくり指導はそれ以前から行われ実践されておりました。そこに新聞界と教育界が連携しようというＮＩＥ運動が加わりました。

現在は 47 都道府県にＮＩＥ推進協議会が設置され、2021 年度には全国に 537 校の実践指定校を上限枠とし、新聞の提供、支援を受け、ＮＩＥ運動が展開されています。

今日、中標津はＧＩＧＡスクールの幕開けで、学校では１人１台のタブレットが手元にあり、これからの学習状況が子供たちにすばらしい未来の道を広げてくれると信じております。しかしながら、昨今、子供たちの読書量が減少傾向にあり、読み取りの能力の低下も心配されるところであります。

さて、ここで別海町の取り組みを紹介いたします。町職員、教員の交流研修で学習能力が高いとされている秋田県での新聞を取り入れた学習効果を研修し、４年前からＮＩ

Ｅ運動を２社の新聞社からの協力を得て、現在は月１度新聞を取り入れた授業を進めております。毎日の新聞もめくり読みができるよう、廊下に掲示されております。新聞の記事を選び、記事を読み取り、意見や感想をまとめ、文章にして発表する。それらの活動で、読解力や作文能力、コミュニケーション能力の向上などと国語力が伸びる可能性が広がります。インターネット社会に進む今だからこそ、ぜひとも取り組むべきと考えますが、教育長の御見解をお伺いいたします。

【答弁：教育長】

松野議員御質問のＮＩＥ教育に新聞を運動について御答弁申し上げます。

子供たちの教材として新聞を取り入れ、情報活用能力の育成に役立てていくＮＩＥのメリットは、大変注目を浴びているところです。

ＮＩＥとは、子供たちが主体的に発見あるいは選択した地域、日本、世界の今日的課題や、人間の問題解決の姿を取り上げ、他者の意見や考えの異なる仲間と対話しながら、それらの原因や解決策を深く考え、より良い未来社会の実現を目指して行われる学習です。まさに新学習指導要領で示された、主体的対話的で深い学びを引き出す有効な学習手段の一つと認識しております。

しかしながら、学習指導要領に基づいて作成される学校の教育課程と年間指導計画には扱うべき学習内容や、時間数が細かく定められております。ＮＩＥを扱う場合、小学校では第４学年から第６学年まで各年間 70 時間、中学校では学年により異なりますが、50 時間から 70 時間行われる総合的な学習の時間を軸に行うこととなります。

そのためには、現在各学校学年で計画的に進められている特色ある学習、例えばプログラミング学習やふるさと学習等の時間を削減するなどの対応が必要となります。これらの学習内容は、ＮＩＥに勝るとも劣らない重要な学習であり、削減した場合、各学校の独自性を制限することになりかねません。

また、現在の指導計画は、学習指導要領改訂に当たって、各学校がそれぞれの特色を生かし、地域や子供たちの実態等を踏まえ、時間をかけて作成したものであり、それらを再構築し直さなければなりません。加えて評価方法が定まっていないため、教師の主観や恣意的判断が問題になり得るという課題も存在します。

ＮＩＥ自体は優れた学習手段でありますが、それを行うためには指導内容を吟味し、指導計画書を作成し直すための十分な時間と指導する側の力量を磨く十分な研修が必要と考えます。

また、議員御指摘のＧＩＧＡスクール構想による、１人１台タブレットの活用が進む

ことによる読解力等の低下への心配についてですが、ＧＩＧＡスクール構想の目的には、多様な形式のテキストに対する読解力の育成が含まれます。具体的には紙に書かれたものにとどまらず、オンライン上などのデジタルテキスト含む情報を取り出し、読み取り、評価検討する力になり、あらゆる情報を活用する能力の育成につながります。

１人１台タブレットは導入したばかりであり、その成果や課題は今後の分析となりますが、タブレットを活用することで、インターネット等を用い、記事や動画等のさまざまな情報を主体的に収集整理、分析し、自らの疑問について深く調べる個別学習や、その情報を共有し、多様な意見にも同時に触れられる協働学習の一層の充実により、主体的対話的で深い学びが促進されるものと考えます。

以上のことから、各学校に対してＮＩＥを学習活動に取り入れることを推奨はできるものの、確実な実施を求めることは難しい現状にあります。

今後も引き続き学校と連携の上、情報活用能力をはじめとした子供たちがこれからの社会を生きる上で必要な力の育成に努めてまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

【質問：松野 美哉子 議員】

確かにＩＴ機器の検索機能を用いると、多くの情報が得られることは明らかです。

新聞の最大の優れている点は、極めて短時間に世界中の大きな流れを数ページめくるだけで見渡せる点であり、日本人にとっては当たり前の大見出しや小見出し、流し記事などの、縦書き文章ならではの編集、レイアウトの紙面づくりは、世界に誇るべき日本の文化であると言えます。それがとかく忘れがちな点であり、スマホタブレットの時代には、新聞は要らないと思っている世代が多くなっているとは思いますが、新聞のページをめくって目的の記事に至る過程で、余分とも言えるさまざまな世界のニュース、地球規模での大きな動きを直感的に把握できることにあります。

今まさにＩＴ万能の時代に突入した時期だからこそ、アナログ的な、とかく無駄が多いものと思われがちな新聞というものを見直し、子供たちに伝える必要があると再度指摘させていただきます。

昨日の道新にはタイムリーな記事や情報が掲載されておりました。それは、８月に札幌でＮＩＥ運動の全国大会が開催されるとのことでありまして、当町としても強い関心を寄せ、調査研究をすべきと考えますが、教育長いかがお考えでしょうか。

【答弁：教育長】

松野議員の再質問についてお答えいたします。

まず最初に申し上げておきたいのは、ＮＩＥを決して否定するわけではございません。大変有効な学習手段と考えております。

ただし、先ほども申し上げたように、それをいきなり各学校の教育課程に取り入れるというのは物理的に難しいと申し上げたところでございます。

今後各学校におきまして、自主的に教育課程にＮＩＥの教育を取り上げることは、決して妨げるものではありませんので、今後も推奨していきたいと考えております。

また、現時点においても、子供たちが自由に閲覧できるよう、図書室や玄関ホールなどに新聞を置いている学校もございます。そういった取り組みを継続しつつ、あわせてタブレットの活用も推進し、子供たちがこれからの情報社会へ適用できるよう、情報活用能力の育成に努めてまいります。

また、各学校の新聞を子供たちの目に触れさせる実践について簡単に御紹介いたします。学校名の発表は控えさせていただきますが、例えば、図書スペースに２社分の新聞を１週間分置いておき、児童が自由に閲覧できるようにしている。図書室に新聞を置き、児童が自由に閲覧できるようにしている。学校で取っている新聞を子供たちの目に触れるように活用している。というようなことが町内の学校でなされております。

また、授業で適宜必要に応じて新聞を扱うということはあると考えております。

以上でございます。